
インサイト

楓 紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

インサイト

【コード】

N7472H

【作者名】

楓 紅

【あらすじ】

跡部と見つめ合っちゃってください！それ以上の説明は難しいの
で見てください！

それから、選手登録を済ませ、飛鳥は、レギュラー陣に囲まれて、ベンチに座っていた。

「……はあっ……」

秀一郎「まだ、緊張してるのかい？」

「レギュラー陣と一緒にベンチに座るなんて、経験、きっと、もうしないとしますし。」

隆「そうかな？；越前なら、また遅刻しそうだよね。」

「いいえ！今度は、絶対に遅刻させませんから！」

薫「？なんで、そんなにはっきり断言できるんだ？」

「え？……いや；俺が、モーニングコールしてやるうかと思って。」

国光「ぶっ！」

英二「モーニングコール？！俺にもして！俺にもして！」

「英二先輩、滅多に寝坊しないじゃないですか。以外に。」

英二「以外につて、酷いじゃ……」

武「それにしても、いけねーな。いけねーよ。越前だけにモーニングコールたー。許せねーな。許せねーよ。」

「?どうしてですか?俺、越前の家から近いし、家、寄ればいい事だし。」

周助「家、越前家から近所なの?」

「はい!だから、越前が遅刻したのは、俺のせいでもあるんですけど!だから、モーニングコールなんですけど?」

国光「・・・頼む。変な言い回しは止めてくれないか?」

「?どの辺がですか?」

薫「フシュー。ただ単に、モーニングコールっつーのは、男同士がするようなもんじゃねーんだよ。」

「ああ!なるほど!んじゃ、桜乃に頼んでみようかな。」

先輩方(ああ。飛鳥つて、本当に鈍いんだな(ね)。)

再び、先輩たちの心が一致した瞬間だった。

そして、試合は始まった。

因みに今、飛鳥の隣に居るのは不二だった。

周助「・・・ねえ?飛鳥?越前と付き合い始めたの?」

「?!・・・俺は、誰とも付き合っていません。もちろん、越前とも。」

周助「どうして、そこまでして、線を引こうとするの?付き合えば良いじゃない?」

「そう、簡単なものじゃないですから。」

周助「そうか。飛鳥が正しいって道を歩けば良いと思うよ?」

不二先輩が飛鳥の頭を軽く撫でやりながら告げる。

「はい。」

嬉しそうに、試合に目線を戻そうとして顔を上げた瞬間、跡部さんと目線が絡まった。

「.....」

何故か、飛鳥は目線を反らす事はできなかった。

景吾「“脱げよ”。」

「ゾクッ!..」

跡部さんの口が、そう言ってるのか、それとも、目でそう言ってるのか分からないが、飛鳥の体は反応する。

(なっ! / / / なんだよ! ; ; これ / / /)

忍足が、跡部に突っ込みながら、飛鳥が消えた方を見つめる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7472h/>

インサイト

2010年10月10日20時25分発行